

船団

第 107 号

特集

昭和後期の俳人たち



火箱 ひろ

太陽光発電中です瑠璃蜥蜴

ひそひそと胡瓜囃む音昆虫館

一日でメダカ博士になる講座

白百合と膝など抱いている夕べ

秋立てり戦争展の年表も

鶏チャーハンなんぞかつ込み星祭

ハイヒール秋思コツコツ遠ざかる

陽山 道子

アトリエの鉄の階段月見草

歪みガラスの向こうサイダーの恋

鱧食べる写楽豊国より寄り目

胡坐組む卑弥呼ゆらりと黒揚羽

あの土手は友情だった花火の夜

盆踊り知らないわたしその中に

星涼しピース四国の形して

● 会員作品 ●

ふけ としこ

カリヨンが鳴るよ槐の零るるよ

暑過ぎる飛行船でも現れよ

ジオラマに長き時間を夏帽子

夏萩や法被の背に楽と抜き

青萱の夜を動かして萱鼠

ペリカンの袋たふたふ夏のゆく

小鳥来る大阪一の低い山

藤井 なお子

青空に重さあるごと梅を干す

梅を干す玉砂利に音少し立て

梅漬の樽の中なる平穩無事

ピアノ弾くように梅干す男かな

水分は光るものなり梅を干す

二の腕に土用の風を未亡人

新駅に下車して新しき土用

芳野 ヒロユキ

キミを失った夜クラゲを吐いた

蟻地獄寺島課長の行きつけの

脱毛に加え発毛夏だなあ

他所様の前ではカミキリムシらしく

黄昏のたとえば大暑ののぼり旗

クラゲちゃんアナタノキスハワスレタワ

もしキミがカピバラならば遠花火

吉原 彩

仙台をかすって終る甲子園

蝉のこえ法師ほうしと入り乱れ

ジャズを聞くもう夏も終るから

別れせまり九月の珈琲のむ

逢いましょうに見上げるいわし雲

つばめ発つたくさんあるよ落しもの

送り火の行列みてる白い杖

● 会員作品 ●

わたなべ じゅんこ

迷彩のリュック背負って新社員

六月の耳鳴り遠く海の音

象狩りの穀雨の午後の暴風雨

結界のむこうにふわりやまぼうし

どんどんと分け入ってゆく梅雨の底

窓際にじやがりこがりがり梅雨あける

一族総出力ピバラ一気の大昼寝

渡部 ひとみ

夏蝶やピアスの穴の留守であり

海抜の矢印夏の空へ向き

戦争を語らぬ胡瓜もんでいる

集合は雨のバラ園前のはず

稲妻や主のいない写真展

手花火の前のピアノの時間かな

月上る誰もが触る砂時計

杏中 清園

トントンとノックする音月下美人
星月夜しげしげ顔を見つめ合い
いちびつて西瓜の切り口誉めており
羊みな寄つて来て熱帯夜
陰口を舌につるりと水羊羹
蚊を打つて我が血の色をじつと見る
百合園の群生ゆらす海の風

池田 澄子

なつかしきおとこのように白雨くる
憂愁や幹のねじれに沿うて蟻
用あつて来たる二階や遠花火
いまのところ平時白桃剥いたりして
二人して秋の黄蝶にあああーと
あなた囁んでみてよ紫式部の実
夕月や歩き足りないけど帰る

● 会員作品 ●

千坂 希妙

アラサーとシルバー別れ牡丹園
夏草は熱中症にならんなあ
瓢亭の朝粥定食胡瓜漬
いかならむ西方浄土の大西日
「月光」と守宮は鳴いております
カマキリと思っていたら宇宙人
台風は日本へ日本は戦争へ

つじ あきこ

月鉾の向こうスタバのラテ飲んで
広島暑い日鉛筆を削る
秋になる南蛮漬の味がしみ
人間が好きで生きてるとんぼかな
かなかなや十八ほどの頭数
カンナ咲くぞろぞろみんな家族です
ふり向けばノラが一匹星月夜

辻村 拓夫

ポーの訳は江戸川乱歩蔦茂る

汗かいて群れ舞うシニアミュージカル

指であけしたり顔なるラムネくん

交差点右左見て蝸牛

蚊遣火の応接室に居座れり

九階の風に納得する晩夏

墓参りまた今度ねと除草剤

津田 このみ

二の腕も胡瓜も水を弾きたる

父と子のさみしきときの冷蔵庫

仮面夫婦の真ん中にさくらんぼ

川とんぼジジと時間を巻き戻す

浜昼顔体に入りし水の出る

たった今秋風碌山美術館

送り火のつもりの煙草火をつける

● 会員作品 ●

津波 古江津

ちから弱き日の枇杷の実の産毛

忘れもの承ります沙羅の花

青葉時雨かたりことりと考える

落ちあつてゆっくりとゆく夏の雲

溪谷にあたらしい水なつやすみ

浴衣の衿ぬけば疎遠のはらからや

八月の月釣っている女なり

坪内 稔典

夕焼けの中のフジツボ愛好会

鬼百合は発火寸前半島も

青柿のころころ左派のぼくたちも

男女荒れ百日草の赤と赤

パプリカは好きな女だことに赤

八月の女は強いピーマンも

夏草の匂い男もこの窓も

中林 明美

小海線巢箱の並ぶレストラン
夕顔の咲いてる難波映画祭
六月や傷ついている溶鉱炉
雨上る平等院のアメンボウ
口紅をすこし足してる半夏生
酔い少しあるほうたるにもあるや
夏燕人のあつまるところが好き

中原 幸子

似た人が来るな違うな南風
兄つばい筈だおーい八月だ
ヒルガオ科アサガオわたし荒れ模様
紅茶熱つあの日戦争に負けた
おうおう残暑くらくらとゆく川いつぽん
焙じ茶のピーンと熱く盆参り
ふえろものようなもんでしよふわり霧

● 会員作品 ●
